

4th International Conference on Molten Slags and Fluxes (Molten Slags & Fluxes '92)

● 第 4 回溶融スラグとフラックスに関する国際会議 ●

▶ 会議 '92. 6. 8~6. 11 ◀

本会では標記国際会議を本年 6 月に仙台市において開催いたしますが、会議組織委員会（委員長：萬谷志郎東北大学工学部教授）では Third circular を発行して参加者の募集を行っておりますので、下記概要をご覧のうえ、多数ご参加下さるようお知らせいたします。Third circular ご入用の方は下記 14. へご請求願います。

記

1. 会議の名称

和文名 第 4 回溶融スラグとフラックスに関する国際会議

英文名 4th International Conference on Molten Slags and Fluxes

略称 Molten Slags & Fluxes '92

2. 会期

1992 年（平成 4 年）6 月 8 日（月）から 11 日（木）までの 4 日間

3. 会場

仙台国際センター

〒980 仙台市青葉区青葉山 TEL 022-265-2211(代)

4. 会議トピックス

- (1) Structural and physical properties,
- (2) Thermodynamic properties,
- (3) Physical chemistry of slags and fluxes,
- (4) Transport properties,
- (5) Slag-metal equilibria,
- (6) Kinetics of slag-metal reactions,
- (7) Mathematical model of the behavior of slags,
- (8) Applications of molten salt for surface treatment.

5. 講演予定数 147 論文（海外 18 か国）（平成 3 年 10 月 28 日現在）

	日本	海外	計
Plenary Lecture	1	2	3
Keynote Lecture	3	9	12
General Contribution	59	73	132
	63	84	147

6. プログラム

Third circular に Provisional program を掲載してあります。

7. Invited Lecture（別記記載のとおり）

8. 会議用語 英語（通訳なし）

9. 会議 Abstract 会議当日参加者全員に配付

10. 会議 Proceedings 12 月までに刊行配付の予定

11. 関連行事

1) Party 1992 年 6 月 8 日（月）Reception

2) Accompanying Persons Program（有料）

1992 年 6 月 9 日（火）

3) Dinner Party 1992 年 6 月 9 日（火）（有料）

12. 会議参加登録費

登録費は下表のとおりです。

	4 月 27 日以前	4 月 28 日以降
一般	51,500 円	61,800 円
学生	25,750 円	36,050 円

登録費には会議 Abstract, Proceedings, Reception, Luncheon 費が含まれます。

13. 登録申込締切日 1992 年 4 月 27 日（月）

Third circular 綴込みの Registration form に必要事項ご記入の上、参加登録費とともに下記 14. 宛お申込み下さい。

14. 連絡・問合せ先

Third circular ならびに本会議に関するお問合せは下記宛お願いします。

〒100 東京都千代田区大手町 1-9-4 経団連会館 3 階
（社）日本鉄鋼協会 国際室 Molten Slags & Fluxes '92
TEL 03-3279-6021(代) FAX 03-3245-1355

~~~~~

#### Invited Lecture のリスト（前記 7. 参照）

##### 1) Plenary Lectures

\* The Influence of Structure on the Physico-Chemical Properties of Slags

K. C. Mills, National Physical Laboratory, UK

\* Mathematical Expression of Slag Metal Reactions by Regular Solution Model

S. Ban-ya, Tohoku University, JAPAN

\* Physical Chemistry of Slags Produced in the Processing of Non-ferrous Metals

J. M. Toguri, University of Toronto, CANADA

##### 2) Keynote Lectures（トピックス別）

##### ● Physical Chemistry of Slags and Fluxes

\* Interfacial Phenomena in Metallurgical Processes and Interfacial Properties of Slags

K. Ogino, Osaka University, JAPAN

\* Some Observations of Interfacial Phenomena

P. Grieveson, Imperials College of Science & Technology, UK

\* Marangoni Effect in Molten Salts and Slags

K. Mukai, Kyushu Institute of Technology, JAPAN

##### ● Slag-Metal Equilibria

- \* Molten Slag Properties and Their Use in Steelmaking Process Control  
P. V. Riboud, IRSID, FRANCE
- \* Thermodynamics of BaO Bearing Fluxes  
N. Sano, The University of Tokyo, JAPAN
- \* Thermodynamics and Kinetics of Reaction in Metal-Slag Systems  
D. I. Ryzhonkov, Moscow Steel and Alloys Institute, Russia
- \* The Refining of Steel with Calcium-based Slags  
D. R. Gaskell, Purdue University, USA
- \* Interaction of Liquid and Solid Phases at Cooling and Crystallization of Multicomponent Iron Alloys  
N. A. Vatolin, The Institute of Metallurgy, Ural Academy of Sciences, Russia

- Kinetics of Slag-Metal Reactions
- \* Enhanced Slag Metal Reactions  
A. McLean, University of Toronto, CANADA
- \* Reaction Kinetics of Some Liquid Slags at Low Iron Oxide Content  
G. R. Belton, BHP Research Newcastle Laboratories, AUSTRALIA
- Mathematical Model of the Behavior of Slags
- \* Predictions of the Chemical Properties of Molten Silicate Solutions  
M. Blander, Argonne National Laboratory, USA
- \* Modelling the Thermodynamic Properties of Slags  
A. D. Pelton, École Polytechnique de Montréal, CANADA

## ISO 幹事国活動

### 1. 国際規格発行に関する進捗状況

- (1) ISO 規格が発行されたもの: 2 件  
ISO 9443 (SC 4): 線材, 棒鋼の表面品質分類 (11-01)  
ISO 3775 (SC 11): 一般用鋳鋼 (10-15)
- (2) DIS 改訂版が中央事務局へ返却されたもの: 1 件  
DIS 404 (SC 20): 出荷条件 (11-13) — 仏版
- (3) DIS 投票結果および各国コメントが SC へ回されたもの: 1 件  
DIS 683-15 (SC 4): パルプ鋼 (11-15)
- (4) DIS 投票が開始されたもの: 2 件  
DIS 630-1 (SC 3): 構造用鋼 (11-07)  
DIS 4952 (SC 3): 耐候性鋼 (11-14)

### 2. TC 17 (鉄鋼) 関係

- (1) TC 17 総会開催  
本年度中央事務局にとって最大の行事であった第 17 回 TC 17 総会の概要を以下に記す。
  - 1) 期間: 1991 年 11 月 19 日 (火) ~ 11 月 22 日 (金)
  - 2) 場所: 京都市国際交流会館
  - 3) 参加国: 10 か国, 1 団体 (日, 米, 英, 仏, 独, 伊, 中, 韓国, ノルウェー, スウェーデン, ISO 中央事務局)  
なお, ソ連より 5 名参加の意志表示があり参加を期待していたが, 日本入国ビザの手続きが長期間 (1 か月以上) を要するため参加が実現しなかったことは残念である。一方, 韓国が今回はじめて TC 17 の会議に参加したことは意義が大きい。
  - 4) 参加人員 33 名 (内日本代表 18 名)
  - 5) 主な討議結果
    - a) SC 17 の幹事国  
1985 年以来空席であった SC 17 (線材および線) の幹事国を中国が引き受けることを申し出て, 満場一致で決定した。TC 17 において日本を除き唯一のアジアの幹事国となり, 欧州偏重の是正という点からも中央事務局としても歓迎すべきことである。

### b) TC 17 Strategic Policy Statement

TC 17 Strategic Policy Statement について当事務局案をもとに討議し, スピードアップ対策および規格の改正等大筋において合意が得られたが, 将来の作業項目についてはさらに検討を加えることとなった。

### c) TC 17 の生産性

規格の作成期間は, 各国規格または地域規格に対する ISO 規格の影響力確保という観点からも中央事務局が大きな関心をもって各 TC を比較しているが, この点に関しては TC 17 は残念ながらあまり良い成績ではない。まず長期間進捗なしにとどまっている作業項目の処置について話し合いを行って合意に達し, また本件を種々の観点から討議することにより意識を高めた。

### d) 電子的手段を活用

中央事務局によれば TC 17 の場合, 規格原案にフロッピーディスクが添付されている比率が他の TC に比して低いとのことである。TC 17 内のほとんどの SC 事務局は中央事務局で読み取り可能なパソコンないしワープロが設置されているという当事務局の調査結果を報告し, ディスクの送付を奨励した。結論としてできるだけディスクを添付し規格作成のスピードアップをはかることを決議した。

### e) 中央事務局の TC 17 へのサービス強化について

先に鉄鋼 ISO 運営委員会で報告したごとく, 中央事務局においては 6 大 TC に対し優先処理, 編集担当者の委員会への派遣による規格原案の早期作成をはかるなどのサービスを行っている。この利用状況について中央事務局より報告があり, SC 1 は積極的に活用しているが, 他の SC も更に活用して欲しいとの要請があった。

### f) 規格の様式の統一

規格様式統一の第 1 ステップとして, まず規定項目の順序を統一するため TC 17 のガイドラインを作る。

### g) コバルト合金鋳物の取扱い

SC 11 (鋳鋼) よりコバルトベースの耐熱合金を取り扱いたいという希望が出され, ISO 内に他にコバルト合金を取り扱っている委員会がないことから, 中央事務局の承認のもとに TC 17/SC 11 で扱うこととなった。